

2021年度市川南中学校の研究の概要

1. 研究主題

「自ら考え、判断し、主体的に行動できる生徒の育成」

－ICTを活用し学び合い、かかわり合いに重点をおいた学習指導の工夫を通して－

2. 主題設定の理由

(1) 今日的な教育課題から

【時代への対応】

通信技術の進歩や、AIをはじめとする技術革新、グローバル化などが急激に進んでいる。一方で地震・異常気象・大規模な感染症などが各地で起きている。そのような中、生徒たちは予測困難な時代を生きていかなければならない。どのような時代になってもたくましく生き抜いていく力を生徒たちに培うことが必要とされている。

【学習指導要領の実現】

学習指導要領では、「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視している。「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」は、「生きる力」を育む重要な構成要素であり、これらの育成は、変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちに必要不可欠なものとなっている。

また、育成すべき資質・能力としての三つの柱を①「何を理解しているか、何ができるか（知識・技能）」、②「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」、③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性等）」と整理された。そして、学校では、学校教育全体ならびに各教科等における指導等において、3つの柱おバランスある育成を通して、生徒一人一人の「生きる力」の育成に努めることが求められている。また、授業においては、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、教員が教えることにしっかりと関わり、子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な学びのあり方を絶え間なく考え、授業の工夫・改善を重ねていくことが重要としている。本校でこれまで研究を積み重ねてきた「学び合い、かかわり合い」は、「主体的・対話的で深い学び」の重要な要素であり、「学び合い、かかわり合い」に重点を置いた指導法の工夫は、「自ら考え、判断し、主体的に行動できる生徒の育成」へとつながるのではないかと考える。

【学校教育の情報化】

今年度からGIGAスクール構想によって生徒1人1人に1台のタブレットPCの活用が実現した。この背景には、「学校教育の情報化の推進に関する法律」に示されているとおり、「高度情報通信ネットワーク社会の発展に伴い、学校における情報通信技術の活用により学校教育が直面する課題の解決及び学校教育の一層の充実を図る」という目的がある。さらに、コロナ禍の中で、生徒に途切れることのない学習保障を提供するために、タブレットPC等を用いたオンラインでの学習環境の整備等、ICT活用した学習指導の工夫は、喫緊に取り組まなければならない課題である。

(2) 本校の実態から

本校は教育目標として「確かな学力を持ち、主体的でたくましく生きる生徒の育成」を掲げ、目指す生徒像として、以下を掲げている。

- ①主体的に学び、よく考える生徒（智）
- ②自主的に行動し、感性豊かな生徒（徳）
- ③心身の健康と安全につとめる生徒（体）

【生徒の実態】

本校は各学年10名以下の小規模校である。生徒は、学習面においては真面目に一生懸命取り組むが、高い意識をもって学習に臨むという面においてはまだ課題がある。また、難しいことでも失敗をおそれないで挑戦することや、自信をもって人前で発表することへ苦手意識を持つ生徒も少なくない。

また、少人数と言うことから、小学校就学時からクラス替えすることなく過ごすことで、自然と友達関係が固定化してしまい、そのような環境の中で、思う通りに行動することが出来なかったりストレスを感じたりすることがある。

そのような実態を踏まえ、生徒が互いを深く理解するためには、より内面に迫った関わり合いを持つことが大切で、同時に、仲間関係の中で生じるストレスに対してどう対処するかの術を身につけることも必要だと考える。

【学校の実態】

学校教育の情報化、GIGAスクール構想によるタブレットPC端末の活用、という点において、本校は以下のような利点がある。

- ・少人数であることからタブレットPC等を用いた授業の実現が実現しやすいこと。
- ・既存のネットワーク（校務系、学習系）に加え、地区独自で整備したインターネット回線をワイヤレスで活用することが出来ること。
- ・GIGAスクール構想によるタブレットPC端末に加え、他の機器やネットワークが利用できるなど整備が進んでいること。
- ・学校予算で全学年で一部の教科を除きデジタル教科書（教師用）が整備されたこと。

このような利点を生かし、昨年度のコロナ禍の中の臨時休業時には、授業を動画で配信するという先行的な実践を行った。今年度ICTを活用した学習指導の工夫にあたり、このような経験を十分に生かすことが出来ると思う。

(3) 昨年度までの研究成果から

昨年度まで本校では「確かな学力の育成」と「心の健康の育成」に注目し、研究を重ねてきた。これまでの研究で、「確かな学力」の育成には「もの」「仲間」「教師」との“かかわり”が重要であり、特に「仲間とのかかわり合い」が「確かな学力」の定着に有効であるという確認がされてきた。また、「心の健康の育成」においては、ストレスと上手に付き合う方法を授業で学ぶ「南中プラン（ストレスマネジメント）」を計画的に実施することで、本校生徒に見られる課題が改善していけるということも確認できた。これらの成果を継続しながら主題に迫りたいと考える。

力の向上に努めたい。

3.研究目標

自ら考え、判断し、主体的に行動できる生徒を育成するために、「学び合い、かかわり合いに重点をおいた学習指導」をどのように工夫したらよいか、またICTをどのように活用したら良いかを明らかにする。

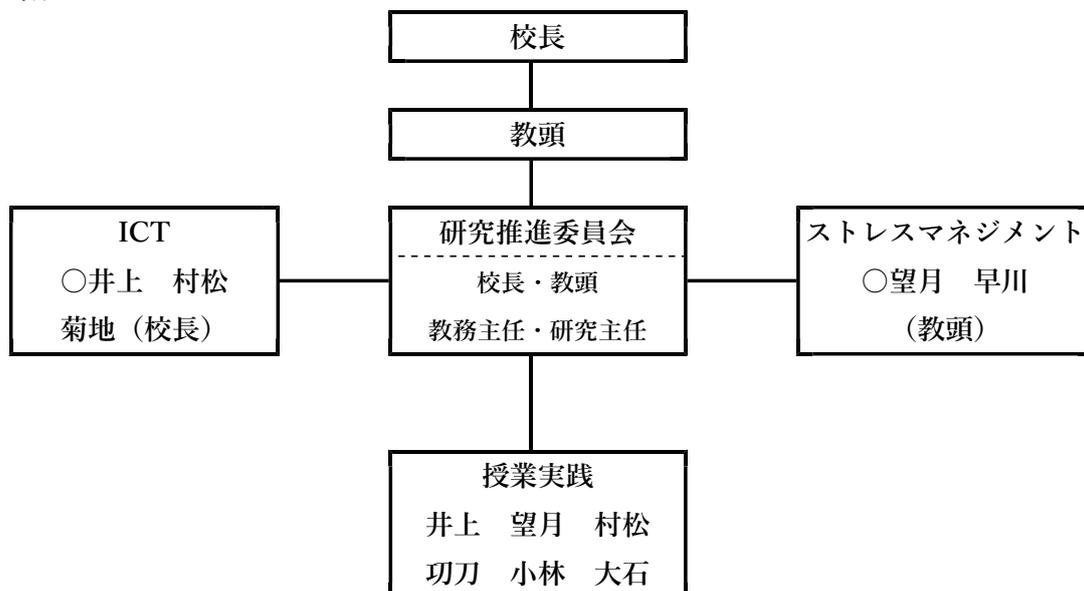
4. 研究内容

- (1) ICTの効果的な活用方法について研究を深め学び合う。(資料1)
 - ①授業の中でのICTの活用の仕方について研究を深める。
(活用するツール・場面・形態・方法 等)
 - ②授業者全員が①に基づいた実践を行う。
 - ③学習・校内研究会に講師を招聘し、研修を深める。
- (2) 確かな学力の定着につながる「かかわり合い」を具現化した授業の実践。
 - ①本校における「かかわり合い(資料2)」を取り入れた実践の実践と検証
 - ②ICTを取り入れた授業実践
 - ③各教科・道徳における授業実践と研究会(年間2回)
 - ④授業交流を通じた学び合い(年間2回)
 - ⑤市川南中の授業改善の視点(資料3)に基づいた授業実践
- (3) 「かかわり合い」を支える『南中プラン』(ストレスマネジメント)の理解と実践
 - ①『南中プラン』(ストレスマネジメント)の共通理解
 - ②授業実践(総合的な時間の中で、1年生6回、2,3年生4回の授業)実施
 - ③各学年の指導案の見直し
 - ④年間指導計画, 指導事例, 資料の整備

5. 研究方法

- (1) 月1回の研究日を設定し、計画的に研究を進める。
- (2) 研究全体に関する企画や立案は、研究推進委員会が中心となり組織的に行う。
- (3) 全教員が1・2学期に1回ずつ設定した「授業交流期間」中に授業公開を行い、意見交換や管理職の指導助言を得る中で授業改善を図る。
- (4) 日常的にお互いに授業観察を行い、気づいたことを授業者に伝え学び合うなどOJTの充実を図る。
- (5) 指導主事等を招聘しての研究授業を年2回設定し、授業改善を図る。

6. 研究組織



○研究推進委員

研究についての素案，計画，校内研の提案作り等行う。不定期に開催。

○ICT

学校におけるICTの活用についてハード，ソフト，ネットワークを含めた環境整備と，ICTの活用方法や情報リテラシーの研究を推進し全体への提案を行う。不定期に開催。

○ストレスマネジメント

ストレスマネジメントの理解と実践の推進，全体への提案。不定期に開催。

○授業実践

各教科，総合，特別活動の授業において，どのようにICTを活用できるか，日常の中で実践を行いながら，活用場面，活用方法の蓄積，実施する上での課題等を明らかにする。

【授業実践の観点】①ICTの有効な活用

- ②ア 本校で培ってきた「かかわり合い」を具現化した授業の実践
- イ 市川南中の授業改善の視点を具現化した授業の実践

7. 研究計画

回	月日	内容
1	4月14日（水）	本年度研究の方向性の確認・研究の概要について決定 (テーマ・研究内容・組織・研究計画・授業研究の持ち方等について)
2	5月 7日（金） 5月	①ICTを活用した授業についての学習①（校長・情報主任） ②『南中プラン』（ストレスマネジメント）についての共通認識と年間の取り組みについての確認 ③第1回授業交流期間について 各家庭のネットワーク環境及びPC・タブレットPC等の保有状況調査
第1回授業交流期間 6月7日（月）から6月18日（金）		
3	6月14日（月）	学習会② ア 各教科におけるICT活用場面 イ ークロムブックの活用法（案）－
4	7月12日（月）	研究授業 授業者 望月 麻由 指導主事招聘
5	8月25日（月）	学習会・小中合同研究会（内容は未定）
6	10月27日（水）	研究授業 授業者 小林 裕季 指導主事招聘
第2回授業交流期間 10月25日（月）－11月5日（金）		
7	11月29日（月）	学習会③ ー授業内におけるICTの活用について②
8	1月24日（月）	研究のまとめ（成果と課題）
9	2月25日（金）	研究のまとめ（来年度へ向けて）

※ストレスマネジメントの授業を総合的な時間で1年生6回，2，3年生4回授業実施

※校内研には位置づけないが，hyperQ-Uを5月下旬，11月中から下旬の2回実施をする。